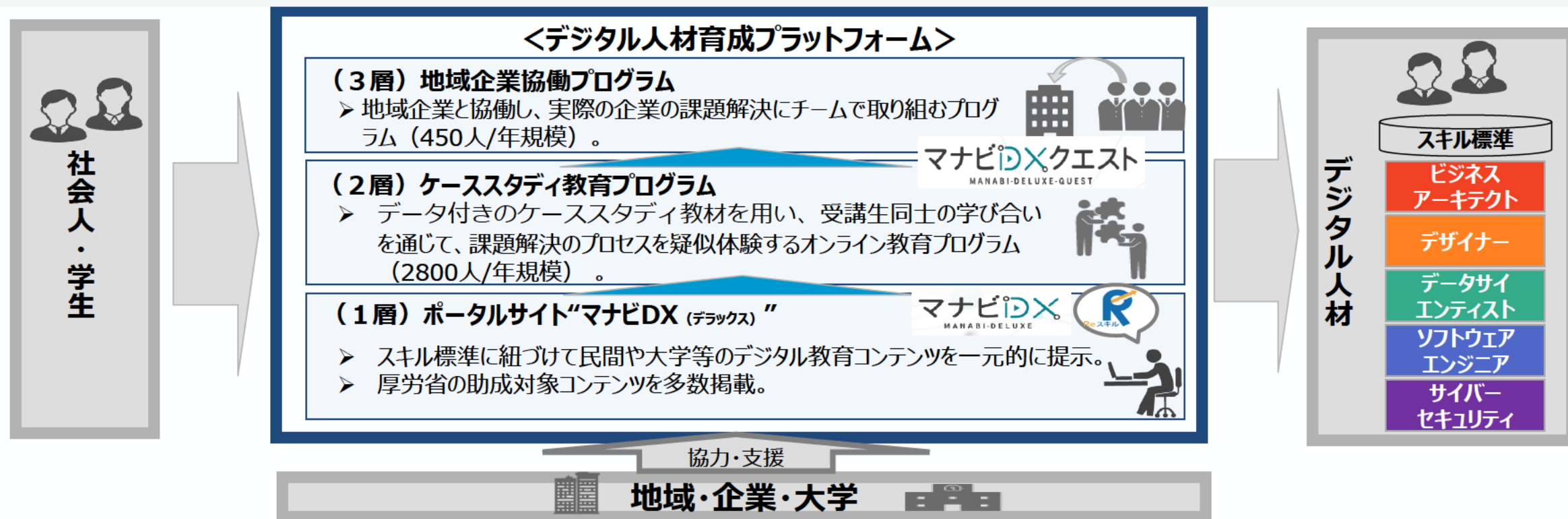


# デジタル人材育成プラットフォーム

- デジタル田園都市国家構想の実現に向け、地域企業のDXを推進するデジタル人材の育成するプラットフォームを構築し、企業内人材（特にユーザー企業）や個人のリスキリングを推進。
- 民間企業等が提供する教育コンテンツ・講座を一元的に集約・提示するポータルサイト「マナビDX」の整備に加えて、ケーススタディ教育プログラムや地域企業協働プログラムを提供。



# 1層：オンライン教育ポータルサイト「マナビDX（デラックス）」

デジタル人材に求められるスキルを自ら学べるよう、民間・大学等が提供する様々な学習コンテンツや講座をスキル標準（分野・レベル）に紐付け、ポータルサイトに提示（約730講座）。

マナビDX MANABI-DELUXE

講座一覧 マナビDXとは マナビDXでの学び方 講座提供希望の事業者の方へ

スキル標準から探す ▼ 何を学びたいですか? 検索 🔍

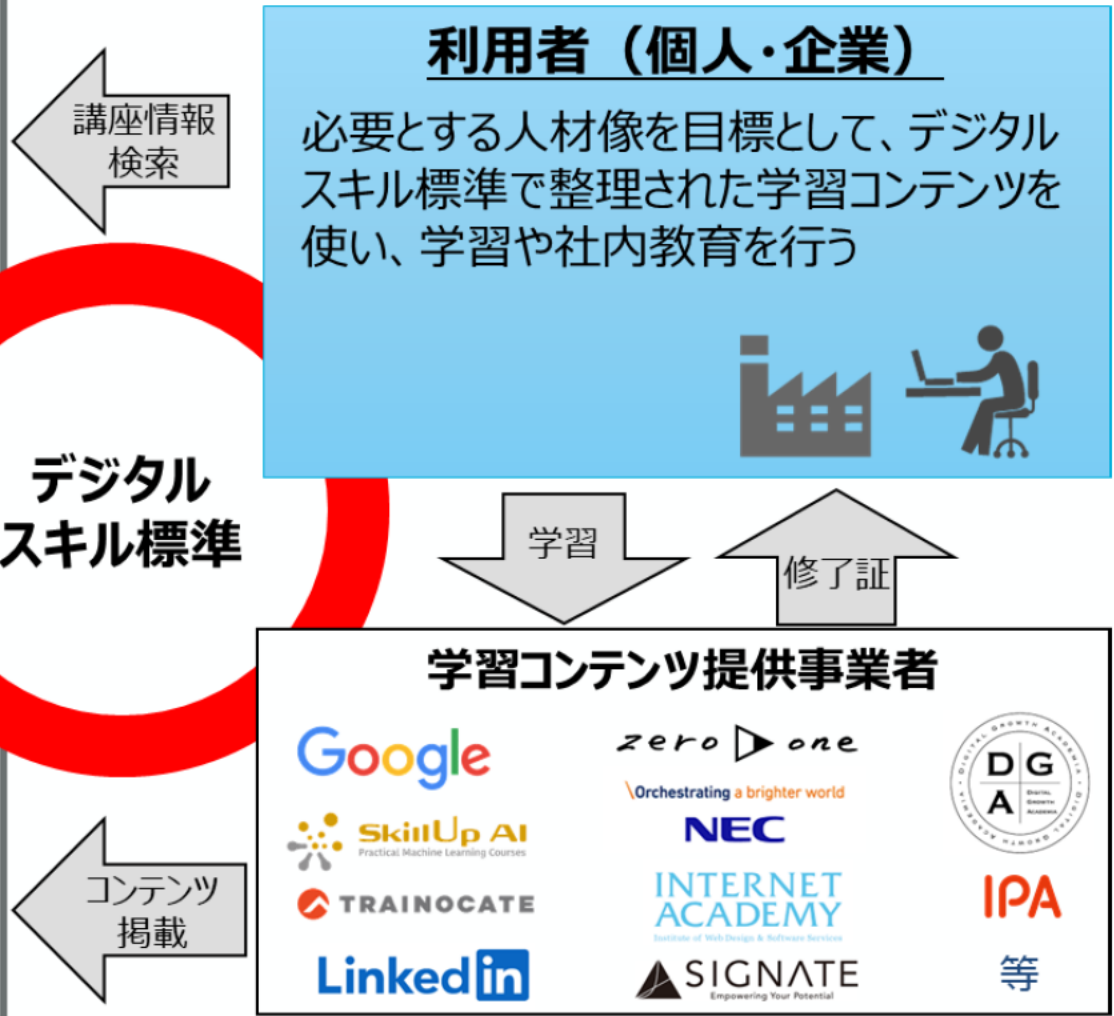
マナビDXは **すべての人**に学びの場を提供します

- かんたん** ●登録不要 ●ログイン不要
- あんしん** ●政府運用サイト ●客先済み講座
- うれしい** ●無償の講座多数 ●前提知識不要

① 全てのビジネスパーソン向けのDXリテラシー標準、  
② DX推進人材向けのDX推進スキル標準を整備し、それに基づき市場で提供されている学習コンテンツを整理し、掲載する。

### 学習コンテンツ

ビジネスアーキテクト	デザイナー	データサイエンティスト
ソフトウェアエンジニア	サイバーセキュリティ	
Reスキル講座	DXリテラシー	etc...



## 2層：ケーススタディ教育プログラム（補助事業）

- ケーススタディ教材を用いて、受講生同士が互いに教え・学び合いながら、DX推進プロセスを一気通貫で疑似体験するオンライン学習プログラム。

### 概要（令和7年度）

- 実施時期：8月～11月頃（約3ヶ月間）
- 受講対象：学生・社会人等（初学者可）
- 受講生数：約2,100人（2団体合計）
- 受講料：22,000円/人

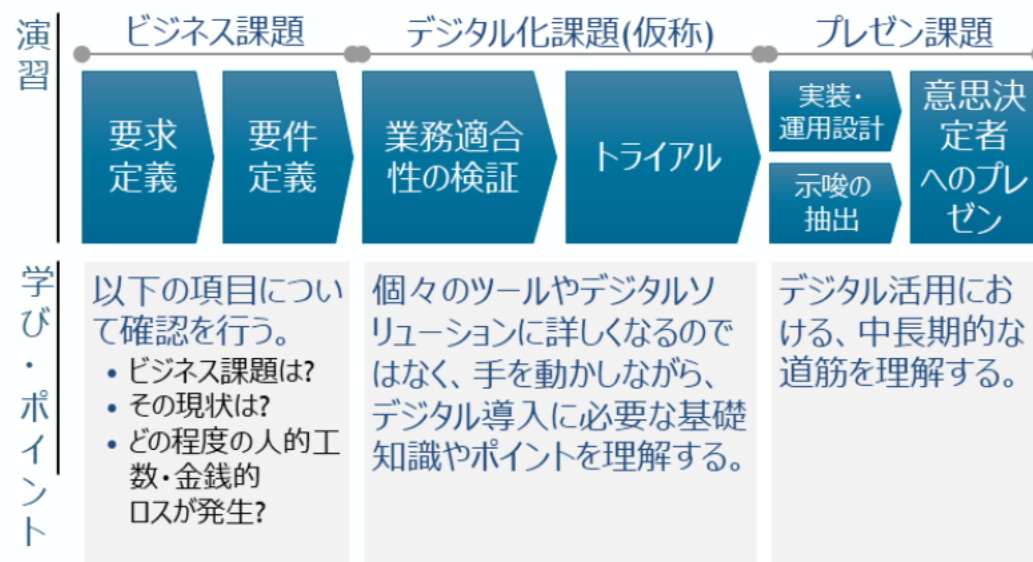
### 特長



- ✓ 「DXで現場の課題を解決する」という一連の流れを疑似体験
- ✓ 企業の実課題・実データに基づくケーススタディ教材
- ✓ 講師による座学ではなく、受講生同士が学び合いながら与えられた課題を解決していくPBL ※を中心に据えたプログラム
- ✓ 受講後も過年度受講生が集う「修了生コミュニティ」に参加し、継続的な学びや交流が可能

※ Project based Learning

### ケーススタディの流れ（例）



教材タイプ (例)	・ AIの実装を通じたDXプロジェクトの疑似体験 (需要予測・在庫最適化、不良個所自動検出、工数予測) ・ データドリブンなDX推進を一気通貫で疑似体験 (収益改善、業務最適化、欠品率軽減に向けた業務改善)
-----------	--

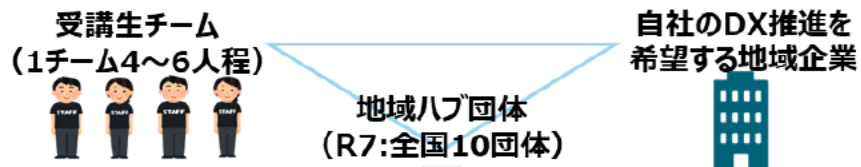
※令和8年度のプログラム内容や使用教材等は、補助事業者の設計による。

### 3層：地域企業協働プログラム（地域ハブ機能実証事業）（委託事業）

- DX推進に課題を有する実際の中小企業等の参加を得て、受講生がチームとなって2カ月程度**企業と協働し、デジタル技術の実装に取り組むプログラム。**
- プロジェクト設計やデジタル技術の能力のみならず、**当該企業社員との交渉や経営陣への提案等の経験を通じて、AI活用を含むより実践的なDX推進能力を身に付ける。**

#### 概要（令和7年度）

- 実施時期：概ね11月～2月頃（約2ヶ月間）
- 受講対象：ケーススタディ教育プログラム修了生など
- 受講生数：約400人
- 受講料：無料



企業発掘、プログラムで扱う課題の整理・プロジェクトの組成、受講生募集、受講生と企業のマッチング、伴走支援

【事務局】  
(経済産業省から別途委託する事業者)  
設計・立ち上げ支援、経済産業省を通じた助言・サポート

#### 取り組み内容

- デジタル化の可能性検討
- データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証
- データ・デジタル技術を用いた新規事業検討

#### 課題解決プロジェクトイメージ

##### 取組内容の概要

##### 成果

##### 事例① 小売業 での 需要予測

スーパーマーケット運営事業者が、過去の売上データや気温等のデータも使い、特定の食料品の売上金額を予測

従来、各店舗ごとに**人力で実施していた需要予測作業を本部のAIに集約することによる工数削減**を実現。

##### 事例② 製造業 での 需要予測

部品製造事業者が、取引先から受ける内示(数カ月後の発注数の概算通知)について、**過去データから内示の入レを予測し、将来の受注量を精緻に予測**

対象とした製品の多くで、需要予測の精度が向上。AIによる予測と実際の発注数の誤差が、内示と実際の発注数の誤差の半分以下となったケースも存在

※プログラムの詳細は、地域ハブ団体の設計による。